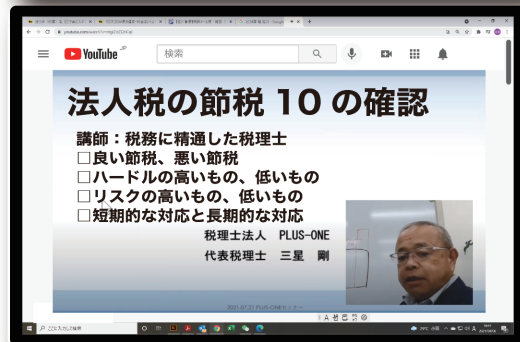


**YouTubeで
オリジナルセミナー動画が見られます!**

**随時
更新**

～普通の社労士では
教えてくれない人事労務のこと～



労使トラブル・労働組合折衝

強い!

**熱血
講義!**

事務所代表 **佐賀豊**が

登録・視聴 無料

[会員登録]



ウェブセミナーご登録はコチラ!

ウェブセミナー会員にご登録いただくとこれまでに開催したすべての ZOOMセミナーが全て視聴できます。ぜひご登録ください!

社会保険労務士法人 佐賀事務所 株式会社 佐賀人事総研 〒115-0045 東京都北区赤羽1-10-11 ショーエービル TEL.03-5249-3326

労使相愛を実現する会
～伝説の社労士事務所と呼ばれたい～
社会保険労務士法人 佐賀事務所
株式会社 佐賀人事総研
TEL.03-5249-3326

2022 December
12月号
第54号

1 逆境に挑むには「脳」を知ることが大事です
2/3 突然、有事が発生! 経営者は運動強度と行動強度を上げてピンチに立ち向かう!!
4 オリジナルセミナー動画が見られます!

発行元: 社会保険労務士法人 佐賀事務所 株式会社 佐賀人事総研 赤羽の社労士ブログ <https://ameblo.jp/saga-sr/>

断酒してから **1561** 日 断煙してから **6312** 日

皆様、いつもお世話になっております。

志ある者には逆境が訪れ、志なき者には苦境がもたらされ、悪意ある者には墓穴が待っている……。苦境に陥らないためにも志は常に明確にして、墓穴を掘らないためにも悪意は排除すべしを旨としています。逆境は辛く苦しいものですが、K点越えの大ジャンプをするには天からの課題(≒試練)はしかと受け止めるべきなのです。逆境が訪れた時、こうして逆境の意味を再認識すると動揺は最小限に抑えることができます。

次は、キーマン探しです。自分よりもステージが上で、かつ同様の逆境を経験したことのある方がベストなキーマンです。<私の逆境事ですが>直近では、令和3年4月28日と令和4年11月16日、キーマンに教えと援け&助けを請いました。事案が違うのでキーマンもそれぞれ異なりますが、最適なキーマンに最高のアドバイスを頂き、最幸な形で乗り越えることができました。

※私がどんな逆境に陥ったのか、ご興味のある方は連絡下さい。包み隠さず答えさせていただきます(笑)。



逆境は一人で解決するものではなく、否、一人では解決できないと考えています。天からの課題なので、そう易々と解決されたら神様もがっかり(苦笑)。

解決の鍵はキーマンが持っている……。開けられぬ扉など、あろうはずがないのです。逆境も天からの課題(≒試練)、苦境・墓穴とは似て非なるものとの認識で臨めば勇気が湧いてくるではありませんか!! 私は、逆境には勇気百倍で挑むようにしています。

逆境から逃げてしまうと最悪。ドツボにはまります。逆境の神様は二度と訪れません。

待ち構えているのは、苦境と墓穴の砂嵐しかありません。だから、逃げないでキーマンを探すこと。一人で解決しようとせず、職場の仲間や釜の飯を共にした友達、最愛なる家族も横軸・縦軸の要として「キーマン一味」となり、機能してくれるはずですよ。

逆境に挑むには、気と心・体のコンディションも大事です。ヨットを速く走らせるにはヨットの構造を知ることが前提なように、コンディションを最大値にするには「脳」を知ることが大事です。現代人の脳は1万年前の狩猟時代の脳構造となんら変わっていないそうです。



運動することで「海馬と前頭葉」が鍛えられ、筋トレで筋量が増えるように海馬と前頭葉も増量することが科学的に証明されています。海馬と前頭葉という「我慢と恐怖心をメインに司る脳の一分野」が鍛えられることで、逆境も乗り越えられること必至。「セロトニン・ノルアドレナリン・ドーパミン・BDNF・エンドルフィン・内因性カンナビノイド」といった脳内最強物質の面々が運動で大量に放出されて、海馬と前頭葉を強化してくれるのです。

逆境を再認識するにしても、キーマンを探すにしても、逆境を真っ芯から受け止めるにしても、気・心・体の充実が前提になります。哲学的象徴として逆境を捉えながらも、<脳>科学の世界にも関心を持ち、肝心要に精通しておくこと。勝ち残りの前に生き残りの時代と言われる戦国令和時代。法学ではまったくもって足りず、私は「総合学」で自分自身を支えています。それが事務所の底上げに繋がり、顧問先企業およびすべての関与先の貢献に繋がると信じております。

今月も一緒に飛ばして行きましょう!

佐賀豊



突然、有事が発生!

伝説の社労士の視点から提言させていただきます

経営者は運動強度と行動強度を上げてピンチに立ち向かう!!

事務所スタッフの突然の退職の申し出で、仕事の大切さ、運気の上げ方、経営者が取るべき行動の段取り……私はそれらを明確に自覚することができました。

会社で役職が上がるほど悩みも深くなる

普段、私が顧問先でいろいろな打ち合わせをする際、相手は社長さんか役員、もしくは幹部社員が多くなります。会社では責任が高まれば高まるほど、役職が上がれば上がるほど、その人が抱えている悩みも深くなります(もちろん、一般社員の悩みが深くないということではありません)。その結果、顧問先の社長さんにはうつ病で出勤できなくなった方もいらっしゃいます。実際、コロナ禍が始まった頃から経営者の障害年金の裁定請求などを依頼されることも増えています。

私は今年50歳になりましたが、自分はそうしたことは無縁と考えていました。ところが、つい最近「これは困ったな」という出来事が起こったのです。顧問先から困りごとをうけたまわるのが私の仕事で、その解決をサポートすることを業務としています。しかし、自分が追い詰められた時、日頃いつも顧問先に言っていることが本当にできるのか、自信がなくなるような大変な経験をしました。



突然、4人のスタッフが退職を申し出る!

具体的には、事務所には私以外に8名の社員スタッフがいますが、10月のある日、そのうちの4名が退職を申し出たのです。ただし、それぞれ個別の理由があり、決して労使関係が悪くなったからではありません。辞める理由は、私が「おい、こら!」と言いたくなるようなものではなく、受け入れるしかありませんでした。4人のうち2人は年内いっぱい、ほかの2人は来年2月末で退職をしたいとのことで、不誠実さはありません。

その日、午前中に1人が「年内で辞めたい」と言ってきました。それを知った、2月に辞めようと思っていた2人が「私も早く言わないと事務所に迷惑がかかる」と思って、あわてて言い出したのです。辞める理由は4人とも個人的なものです。1人が言い出したことで、「早く言わなくてははいけない」と考えて同じ日になりました。

キックボクシングのリングよりも追い込まれた……

スタッフの半分が辞めることで私がジタバタ、ドタバタしていると、残される人間は辞める人の仕事も自分に降りかかってくると思います。そんな考えを持たれると、残された人間も辞めてしまう。私はそう考えました。私は降参するわけにはいきません。すぐに人の手立てが必要です。さもないと、残りの4名も危うくなってしまいます。

私はなにごとにも微動だにしないと言うほど強心臓ではありませんが、それほど追い込まれないというか、普段から鍛えているという自負がありました。それでも、その日は突然の出来事に、さすがの私もビビりました。キックボ

クシングのリングに立った時よりも追い込まれた気持ちでした。サハラ砂漠の250キロマラソンでも、170キロぐらいから爪が4枚はがれて大苦戦しましたが、もしかしたらその時以上に追い込まれたかもしれません。

月間100時間の労働時間の余裕を作り出す

私は当日から、否、その瞬間から、できることをやろうと決めました。「座して待つ」では、何も解決されないからです。人が辞めても、その人がやっていた仕事は残るわけで、誰かがやらなければいけません。そこで残るスタッフと辞めるスタッフを集めて、今の仕事で業務の支障になっていることがあるかヒアリングをしました。それを取り除くことができれば、仕事の効率を上げることができ

ます。ミーティングの結果、取引のある5社の業務に関しては私が先方に向いてお願いをすれば、月間で30時間の労働時間を減らすことができるとわかりました。30時間では4人の労働時間には全然足りませんが、そうした算段を行いました。次に、これまで経理業務をスタッフ(残る4人のうちの1人)が担当していましたが、その人を経理から外してほかの業務を担当してもらい、私の妻にやってもらうことにしました。妻は社労士の仕事のことはわかりませんが、経理のことはわかるからです。これで経理担当者は40時間ぐらいを捻出できます。

また、事務所では多くの会社の給与計算業務を請け負っていますが、私も1社だけですが実務を受け持つことにして、ある会社に関してはその業務を返納することにしました。こうして合計100時間ぐらいの余裕が生まれたのです。



「自分には余分な仕事が降りかからない」と安心してもらおう

常勤だと1人の月の労働時間は160時間になりますが、ワークライフバランスの担保と依存関係に陥ることを防ぐため私の事務所には週に5日働く人はいません。辞める4人のうち、いちばん長い人でも週4日で9時から4時です。もちろん、社会保険には入っています。そのため、以上の取り組みによって4人のうち1人分ぐらいは補うことができます。

そして、外注が可能な業務は外注します。たとえば、動画を撮影・編集する作業は得意な人がいたので事務所の中で行ってました。その人も12月末に辞めるので引き継ぎ書を作ってもらい、知り合いの会社のその分野が得意な方に外注することにしました。1時間単価では金額的には高くなりますが、社員だと今回のように辞めることもありま

す。こうした対策をすぐに講じたことで、残る4名は生産性が高まることをリアルに感じることができるようになりました。なおかつ、給与計算の業務でいちばん大変なところは私も参加するので、自分たちの負担は増えません。また、私の妻も経理を担当する。こうした方針を決めることで、自分には余分な仕事が降りかからないと安心してもらうことに私は注力しました。

採用活動にも力を入れた

同時に、採用活動にも力を入れました。もっとも採用に関しては、普段から力を入れているつもりです。しかし、この8か月ぐらい1人も採用することができませんでした。生意気な言い方かもしれませんが、眼鏡にかなう人がいなかったのです。採用に関して、私は人余り状態だと思っています。自分の営業力があれば、仕事はいくらでも取れると思っています。しかし、人がいない状態で仕事を取っていくと、当然、業務が過密になってしまうので、そのバランスは調整しているつもりです。

今回は辞める人がいるので、ぜひとも採用する必要があります。そこで、普段以上に運気を上げなければいけないと思い、近くに両親の墓があるのでお参りに行きました。いつもお参りしていますが、今まで以上に見守って下さいとお願いしました。

運動強度を上げると脳の働きはマックスになる

私は運気を上げるため、週5で行っているトレーニングの運動強度を約1.5倍に上げました。運動強度を高めることで運気が上がると思ったからです。普段は30分で6キロ走っていますが、45分で8キロ走ることにしたのです。運動とは「運が動く」と書きます。車のことを知るには、車の構造のことを知らなければいけません。したがって、運気を上げるためには運気の構造を知らなければいけません。運気とは何かというと、私は脳だと思っています。私は脳の勉強のために『運動脳』という本を読み、自分のアプローチは間違っていないと確信することができました。

運動強度を上げるとセロトニンとノルアドレナリンとドーパミンが分泌されますが、この三つの物質は、もともと私は運動をしているので普段から出ています。そして、運動強度を上げることで、BDNFという最強の脳内物質とエンドルフィンという脳内麻薬のような物質(ランナーズハイを呼び起こす物質)、さらに内因性カンナビノイドという物質も分泌されるのです。これらの働きによって、自分の脳をベストの状態に持っていくことができるとわかりました。



あっという間に3人の採用が決まる

退職の申し出のあった次の日から運動強度を上げました。すると、不思議なことに頭も冴え、心も落ち着いてきたのです。しかも、2、3日後の面接では午前と午後で1人ずつ、2人の採用が決まりました。今まで見たことがないような優秀な人材が面接に来たのです。また、顧問弁護士さんに相談したところ、ちょうど奥さんが働くことを考えていたそうで、先生の奥さんが翌週から来てくれることになりました。こうして、あっという間に3人を採用できたのです。

すると、残る4人も「辞めない、ここにしよう」という気になったことがわかりました。辞める4名もケンカ別れではないので、引き継ぎをしっかりと行ってくれます。この4人にも「もしかしら辞めるのはもったいかな」と思ってもらい、もしもう一度雇ってほしいと言ってきたら、私は再度雇おうと思っています。

採用決定!!



行動強度と運動強度を上げると、自分史上のベストが生まれる

会社にとって、やはり人は大切です。前にも書きましたが、会社を船だとすると人は水なのです。水がなければ船は進みません。ただ、船を進めてくれるのは水ですが、転覆させるのも、また水なのです。今回、私は転覆させられそうなおもいをしました。経営者や幹部社員には、仕事とはすごく大切であること、自分の分身という気持ちを持ってほしいと思います。私自身も、そういう気持ちで社労士道を進んでいきます。顧問先に困りごとがあっても、ごく近いところでサポートができる。その自信がより深まりました。

ピンチや大変な事態に直面した場合、逃げるか戦うか、このどちらかしか選択肢はありません。会社であれば、やめるか続けるか。続けるのであれば続け方があります。やめるのであればやめ方があります。しかし、休みはありません。座して、ではいけません。そのためには運気を上げる必要があります。もちろん、神頼みも畏敬の念を抱くという意味で運気かもしれませんが、それでは足りません。自分で運を動かす。行動をもそうです。行動の動も動くです。行動強度も上げて、運動強度も上げる。これによって自分史上のベストが生まれます。そして、起こり得ないことも起こるのです。

「仕事とは命をとられるほどのものではない」と言われたりしますが、今回、改めて仕事は命と同じくらい大切なものだということを実感しました。有事に陥った時、社長や経営幹部はいじけてはいけません。運動と行動、2つの「動」で運気を上げてください。道は必ず開けます。